

日本アンダーライティング協会

吉武由布子氏(第一生命)が新代表理事に就任

会員にとって有意義な存在を目指す

専門職としてのアンダーライターの育成と認知度向上に取り組んでいる日本アンダーライティング協会では、6月の理事会で第一生命の吉武由布子氏が新たな代表理事に就任した。初の女性代表理事となる吉武氏は、2006年の設立当初から同協会に関わってきた八東滋前代表理事から次世代を担うリーダーとしてバトンを受け取ったからだ。「私自身は歴代の代表理事に比べて経験も浅く、足りない部分も多いと思うが、アンダーライティング業務に精通した理事の皆さんとアイデアを出し合いながら、会員の皆さんの役に立つ活動を展開していきたい」と意気込みを語る同氏に、今年度の取り組みについて聞いた。



吉武氏

——代表理事就任の所感を。

吉武 2020年度から事務局を担当して

り、今後も事務局で活動していくと思っていたところ、代表理事という思いがけないお話をいただいた。歴代の代表理事は皆さん業界の著名人ばかりだったので、本当に私でいいんですか、という

の皆さまのためになる活動ができれば良いなと思う。

——これまでのご経歴を。

吉武 大学を卒業後、第一生命に一般職として入社した。入社後12年くらいは支社やコールセンターで主に保全系の仕事をし、2003年から新契約査定業務を担当している。私にとって、査定業務の魅力は、病気に

として教育講習会に参加しており、コロナ禍前には教育講習会後に行われていた懇親会にも毎回出席していたところ、理事の方々と知り合うこととなり、事務局の活動に誘

っていたこと、病気をいかに論理的にとらえるかという部分にある。また、

人数で担当しているため、限られたメンバーでいかに業務を回していくかという部分にも面白さを感じている。当協会については、以前から会員

——どのような組織を目指しているか。

吉武 創設時には33社だった会員企業が、昨年には56社になるなど、毎年組織は少しずつ大きくなっている。それだけアンダーライターが引き受

けるようになってきた。多くの会社から、アンダーライターの育成について悩んでいるという話を聞くので、当協会をアンダーライターの自己

吉武 今年度から資格試験のCBT化を予定している。今までは年に1度、全国8カ所の会場に

集まって受験してもらっていたが、今年度は2月11日から2月26日までの

2週間、全国300カ所のテストセンターで受験していただく。移動の面で受験者の利便性も向上するし、2週間という期間を設けることで、受験しやすくなるはずだ。もう一つ、教育講習会を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催する。

おり、教育講習会も資格試験も方向性が定まっているが、アフターコロナの時代に向けて、いかに会員の期待に応える活動ができるのかということ

はこれから考えていかなければいけない。利便性という意味でも、コロナ前と今では感覚が大きく変わっているため、時代に合わせた対応を検討していきたい。

——会員へのメッセージを。

吉武 アンダーライターの皆さんは多忙な日々を過ごしていると思うが、アンダーライティングが生保会社の収益向上のための重要な手段であることを忘れず、広い視野を持って仕事に取り組んでもらいたい。近年、医学やテクノロジーは急速に進歩しているが、会員の皆さんには、そういった知識・情報を広くキ

2023年2月には初のCBT試験実施

時点での初級資格合格者数は4610人、中級資格合格者数は2172人、上級資格合格者数は1314人となっている。また、教育講習会は今年度4~5回実施しており、今年度も5回を予定している。

——現在の課題は。

吉武 コロナ禍での活動については、前述のと

ヤッチできる人材を目指していたらいいと期待している。そのためにも、当協会の教育講習会をはじめとした活動に積極的に参加し、役立つ情報を身に付けてほしい。当協会としても、時代とともに変化しながら、会員各社の期待に沿った活動を展開していきたい。また、アフターコロナの世界では懇親会も開催したいと考えている。会員各社は、引き受け基準や取り扱いこそ異なるものの、懇親会で悩みを相談すると、みんな同じ悩みを持っていることは少なくない。悩みを共有し、ともに考え、みんな「明日からも頑張ろう」と思えることは当協会の魅力の一つだ。開催が実現したときには、ぜひ参加していただきたい。